

# Kansai Economic Insight Monthly

2014/11/21

Vol.19 October/November

- ・APIR “Kansai Economic Insight Monthly”は、関西経済とそれに関連する中国経済の動向に関する分析レポートです。
- ・本レポートの内容は、公益社団法人関西経済連合会『関西経済レポート』と連携しています。
- ・レポート公開時期は毎月第二週金曜日を予定しています。
- ・執筆者は、稲田義久（甲南大学教授、APIR 数量経済分析センター長）、岡野光洋・林万平・木下祐輔（各 APIR 研究員）です。
- ・本編内の中国景気モニターは、APIR 中国経済分析のプロジェクトによるものであり、関西経済分析と連動して定期的に発信します。
- ・本レポートにおける「関西」は、原則として滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県の2府4県です。統計出所を発表している省庁などが「近畿」としている場合も「関西」に統一しています。

## 目次

要旨	1
景気の現況	2
中国景気モニター	8
主要月次統計	11
Release Calendar	12

## 要旨

- ✓ 9月の鉱工業生産指数は前月比+4.8%と2カ月ぶりの上昇も、7-9月期の生産は3期ぶりの前期比マイナス。今後の生産動向には注意が必要。
- ✓ 10月関西の貿易は、輸出は20カ月連続で増加し伸びは2桁となった。輸入は2カ月連続で増加し、単月過去最高額を記録。結果、貿易収支は2カ月ぶりの黒字となり、前年同月から改善。
- ✓ 10月の景気ウォッチャー現状判断DIは前月比2カ月ぶりのマイナス。外国人観光客による消費の増加が落ち込みを軽減したようである。先行き判断は同2カ月連続の悪化。
- ✓ 10月の消費者態度指数は3カ月連続の悪化。消費者心理の停滞感が増しており、同指数を構成する4つの指標のうち3つが前月からマイナス。
- ✓ 8月の現金給与総額の伸びは関西2府4県、関西コアともに6カ月連続のプラスとなったものの、伸びは大幅に減速。
- ✓ 9月の大型小売店販売額は、前年比3カ月連続のプラス。関西の消費は増税後緩やかながら改善を続けている。
- ✓ 9月の新設住宅着工戸数は前年比2カ月ぶりの大幅減。持家と分譲の2桁減が全体の減少に寄与した。
- ✓ 9月の有効求人倍率は3年5カ月ぶりに前月比悪化。一方、新規求人倍率は改善しており、求人意欲は回復傾向。失業率は非労働力人口減少と完全失業者増加により、前月から小幅上昇。
- ✓ 10月の公共工事請負金額は前年比+10.8%と3カ月ぶりの増加も、季節調整値では前月比-22.1%と減少。公共工事受注はこのところ停滞している。
- ✓ 9月の建設工事は前年比+2.3%と29カ月連続の増加も、伸びは6カ月連続で1桁となった。全国的に伸びは減速感が強まっている。
- ✓ 10月の中国の製造業購買担当者景況指数(PMI)は、前月から-0.3ポイント低下し50.8。輸出額は前年比+11.6%増加し7カ月連続のプラス。輸入額は同+4.6%と2カ月連続のプラス。

### 【関西経済のトレンド】

	2013年		2014年									
	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
生産	➡	➡	➡	➡	⬇	⬆	⬆	⬇	⬆	⬇	⬆	
貿易	⬆	⬇	⬇	⬆	⬇	⬆	➡	⬇	⬆	➡	➡	⬆
センチメント	⬆	➡	⬇	⬇	⬇	⬇	⬆	⬆	⬆	⬇	⬇	⬇
消費	⬆	⬆	⬆	⬆	⬆	⬇	➡	➡	➡	⬆	⬆	⬆
住宅	⬆	⬆	⬆	⬇	➡	⬆	⬇	➡	⬇	⬆	⬇	⬇
雇用	⬆	⬆	⬆	➡	➡	➡	⬆	➡	➡	➡	➡	➡
公共工事	⬆	⬆	⬇	⬇	⬇	⬆	⬆	➡	➡	➡	⬇	⬆
中国	➡	➡	➡	➡	➡	➡	➡	⬆	⬆	⬇	⬆	➡

#### 【鉱工業生産動向】

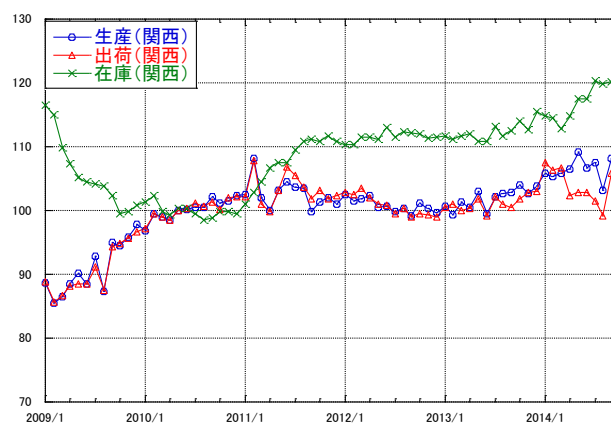
##### (1) 関西の生産動向

9月の鉱工業指数（速報値：季節調整済）を見ると、生産は108.2で前月比+4.8%、出荷は105.8で同+6.7%、在庫は120.2で同+0.3%と、いずれも2カ月ぶりの上昇となった。

業種別に生産指数をみると、電子部品・デバイス(同+19.8%)、はん用・生産用・業務用機械(同+6.1%)、電気機械(同+7.6%)等が上昇した。一方、プラスチック製品(同-1.5%)、パルプ・紙・紙加工製品(同-0.1%)等が下落した。

前月から一転、生産の伸びはプラスとなったものの、7-9月期の生産は前期比-1.1%と3期ぶりのマイナスとなった。足下、出荷は改善しているが、在庫は高水準であり、今後の生産動向には注意が必要である。

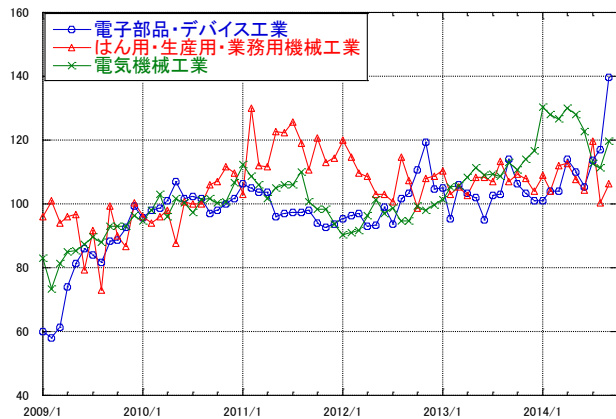
鉱工業指数の推移(関西：2014年9月まで、平成22年=100)



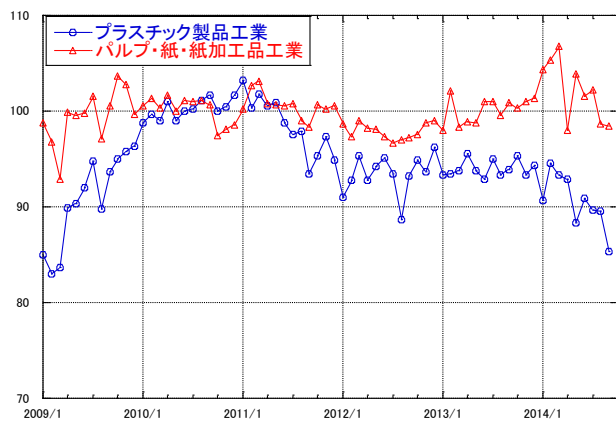
(注) 福井県を含む。

(出所) 近畿経済産業局「近畿経済の動向」

業種別生産指数の推移(関西：2014年9月まで、平成22年=100)



業種別生産指数の推移 (続き)



(注) 福井県を含む。

(出所) 近畿経済産業局「近畿経済の動向」

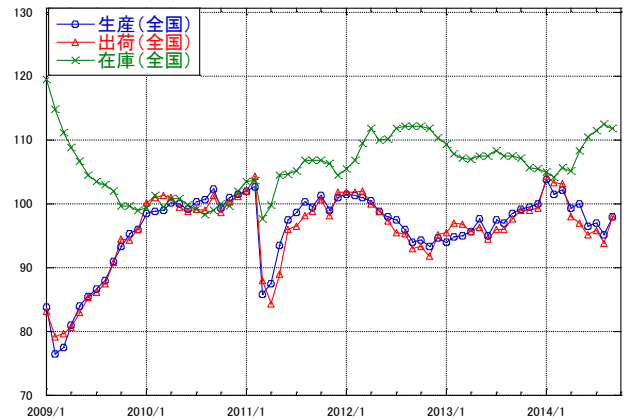
## (2) 全国の生産動向

全国における9月の鉱工業生産指数(確報値、季節調整済)は98.0となり前月比+2.9%、出荷は98.0で同+4.4%といずれも2カ月ぶりの上昇。在庫は111.8で同-0.7%と5カ月ぶりの下落となった。

業種別にみると、輸送機械(同+3.8%)、電子部品・デバイス(同+6.0%)、電気機械(同+5.5%)等を中心に幅広い業種で増産となった。一方、食料品・たばこ(同-2.1%)は減産となった。

結果、7-9月期の生産は前期比-1.9%と2期連続の減産となった。速報における製造工業生産予測調査では、10月(同-0.1%)は僅かに減産であるが、11月(同+1.0%)には小幅に増産の見込みである。

鉱工業指数の推移(全国：2014年9月まで、平成22年=100)



(出所) 経済産業省「鉱工業指数」

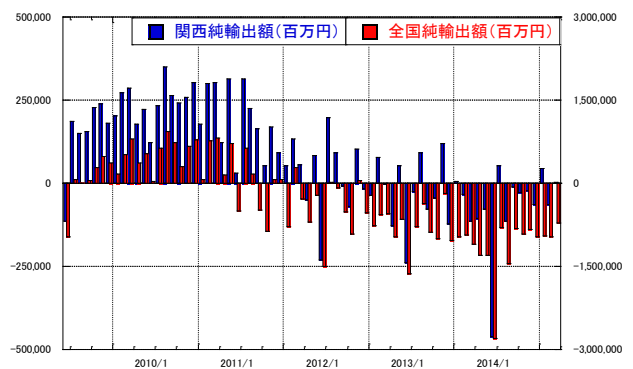
## 【貿易動向】

### (1) 純輸出

貿易概況(速報値)によれば、10月関西の貿易収支は+40億円と2カ月ぶりの黒字となり、前年同月から1,164億円改善した。全国10月の貿易収支(速報値)は-7,100億円と28カ月連続の赤字。赤字幅は同-35.5%縮小した。

関西純輸出(左軸：百万円)・全国純輸出(右軸：百万円)推移

(2014年10月まで)



(出所) 大阪税関調査統計課「大阪税関貿易速報資料：近畿圏」

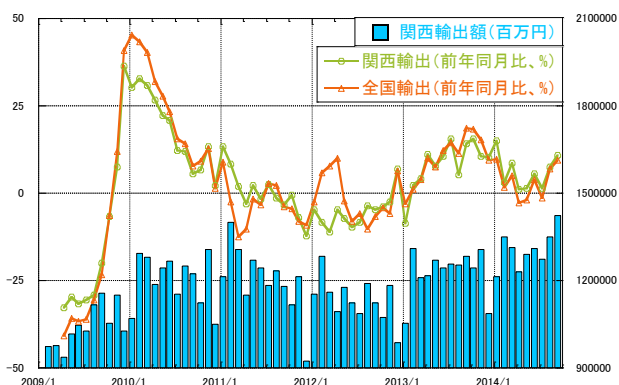
### (2) 輸出

関西10月の輸出額(速報値)は1兆4,253億円となり、前年同月比+10.9%と20カ月連続の増加。伸びは前月(同+7.5%)から幾分上昇し、8か月ぶりに2桁となった。財別に

見れば、輸出増加に主に貢献したのは、半導体等電子部品、有機化合物であり、いずれも単月過去最高額を記録した。

全国 10 月の輸出額(速報値)は 6 兆 6,885 億円となり、前年同月比+9.6%と 2 カ月連続の増加。財別に見れば、自動車、船舶、鉄鋼等の輸出が増加した。

輸出(右、百万円)・前年同月比(左、%)推移(2014 年 10 月まで)



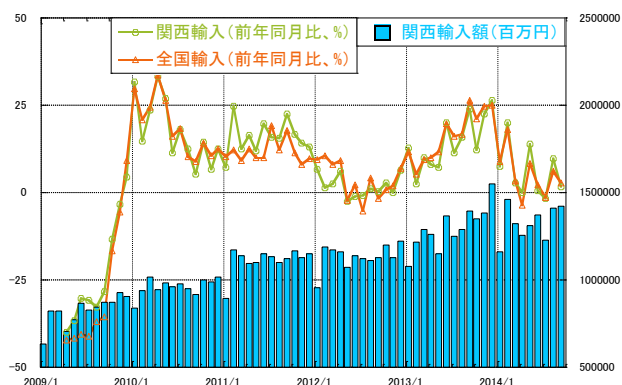
(出所) 大阪税関調査統計課「大阪税関貿易速報資料：近畿圏」

### (3) 輸入

関西 10 月の輸入額(速報値)は 1 兆 4,213 億円と 2 カ月連続の増加となり、10 月単月の輸入額としては最高額を記録した。伸びは前年同月比+1.7%と前月(同+9.7%)から低下した。財別に見れば、天然ガス及び製造ガス(単月過去最高額)、通信機(単月過去最高額)等の輸入が増加した。

全国 10 月の輸入額(速報値)は 7 兆 3,985 億円、前年同月比+2.7%と 2 カ月連続の増加。財別に見れば、通信機、肉類、液化天然ガス等の輸入が増加した。

輸入(右、100 万円)・前年同月比(左、%)推移(2014 年 10 月まで)



(出所) 財務省「財務省貿易統計」

### (4) 関西の地域別貿易

10 月関西の貿易収支を地域別に見ると、対アジア貿易収支は前年比+1,138 億円と 9 カ月連続の黒字であり、黒字幅は 4 カ月連続で前年から拡大した(同+165.1%)。うち、輸出は 2 カ月連続のプラス(同+9.5%)。財別に見れば、半導体等電子部品(同+10.4%)、科学光学機器(同+13.6%)等が増加した。輸入は 2 カ月連続のプラス(同+1.3%)も、伸びは前月(同+7.4%)から低下した。財別に見ると、通信機(同+32.5%)、魚介類及び同調整品(同+23.3%)等が増加した。輸出入ともに増加となったが、結果、貿易収支は黒字となった。

うち、対中貿易収支は-1,430 億円と 32 カ月連続の赤字となった。赤字幅は 4 カ月連続で前年同月から縮小した(前年比-10.0%)。輸出は 7 カ月連続で増加(同+12.4%)。財別に見れば、通信機(同+72.9%)、半導体等電子部品(同+15.8%)等が増加した。一方、輸入は 2 カ月連続の増加(同+4.8%)であり、財別に見れば、通信機(同+44.8%)、鉄鋼(同+36.2%)等が増加した。

対米貿易収支は+944 億円と黒字基調が続いており、黒字幅は 2 カ月連続で前年から拡大した(前年比+44.5%)。うち、輸出は 5 カ月連続の増加(同+20.8%)であった。財別に見れば、建設用・鉱山用機械(同+52.6%)、電池(同+73.8%)等が増加した。輸入は 6 カ月連続の増加(同+4.0%)であり、財別に見れば、天然ガス及び製造ガス、石油製品(同+1238.6%)等が増加した。

対 EU 貿易収支は-28 億円と 2 カ月連続の赤字も、赤字幅は前年から縮小した(前年比-73.4%)。うち、輸出は 2 カ月ぶりの増加(同+9.0%)となった。財別に見れば、遊戯用具(同+112.9%)、科学光学機器(同+71.5%)等が増加した。輸入は 2 カ月連続の増加(同+2.9%)であった。財別に見れば、肉類及び同調整品(同+90.2%)、鉄鉱石等が増加した。

### 【消費者センチメント】

#### (1) 消費者態度指数の動向

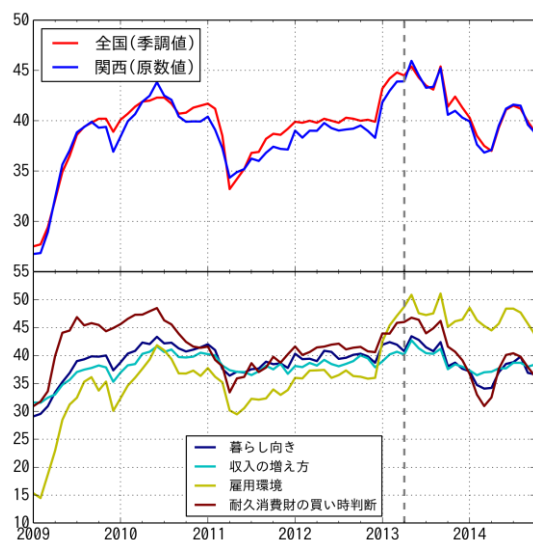
関西の 10 月の消費者態度指数(原数値)は前月比-0.8 ポイントの 38.8 と、3 カ月連続の悪化。消費者心理の停滞感が増してきた。

同指数の構成項目をみると、4 つの指標のうち 3 つが前月からマイナスとなった。「収入の増え方」が同+0.4 ポイント

と2カ月ぶりにプラスに転じたものの、「暮らし向き」は同-0.3ポイントと2カ月連続のマイナス。「雇用環境」は同-2.0ポイント、「耐久消費財の買い時判断」は同-1.7ポイントといずれも3カ月連続のマイナス。

なお全国の10月の消費者態度指数(季節調整値)は38.9となり、同-1.0ポイントと3カ月連続の悪化。

消費者態度指数(2014年10月まで)



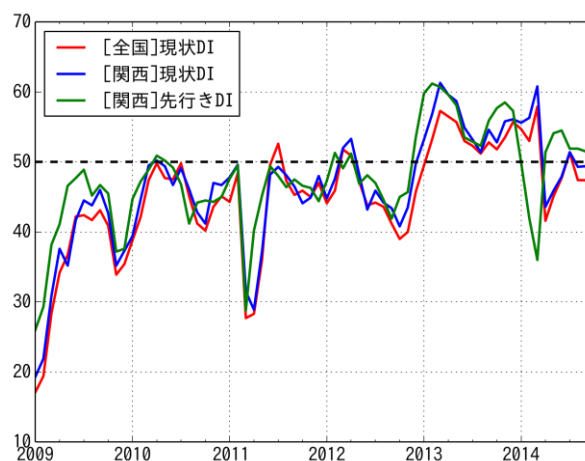
(出所) 内閣府「消費動向調査」(平成26年11月11日公表)

## (2) 景気ウォッチャー指数の動向

関西の10月の現状判断DIは前月比-2.4ポイント下落し47.0となった。2カ月ぶりのマイナス。一方全国は同-3.4ポイント大幅下落し44.0となった。前月の横ばいから2カ月ぶりの下落。外国人観光客の増加が百貨店売上に寄与し、関西の落ち込み幅は全国より軽微となったようである。

先行き判断DIは、関西では同-1.5ポイント低下し、50.0となった。2カ月連続の悪化である。全国では46.6となり、同-2.1ポイントの低下。5カ月連続で悪化している。7-9月のGDP速報値の民間最終消費支出の回復が限定的であったこともあり、今後センチメントの動向には注意が必要である。

景気ウォッチャー調査(2014年9月まで)



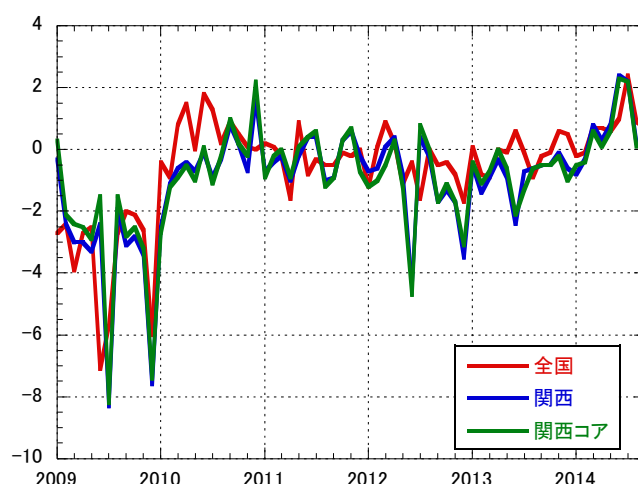
(出所) 内閣府「景気ウォッチャー調査」(平成26年11月11日公表)

## 【所得・個人消費・住宅】

### (1) 現金給与総額

8月の関西2府4県の現金給与総額(APIR推計)は26万6,536円で前年比+0.2%と6カ月連続のプラスとなったものの、前月(同+2.2%)から伸びは大幅に低下した。府県別では、大阪府の伸びが前月(+3.6%)から3.8%ポイント低下し、-0.2%と6カ月ぶりのマイナスに転じた。その他の府県では、和歌山県+1.9%、奈良県-1.6%、京都府+1.2%、滋賀県+0.6%、兵庫県+0.1%と前年からの伸びは小幅にとどまった。

現金給与総額(前年同月比: %, 2014年9月まで)



(注) 関西・関西コア(京都、大阪、兵庫)はAPIR推計値。現金給与総額を当該常用労働者数(平成23年平均)で加重平均。

(出所) 厚生労働省「毎月勤労統計調査」(11月18日公表)

また、京都・大阪・兵庫の加重平均をとった「関西コア」賃金指数(APIR 推計)は8月が同+0.1%とこちらも6カ月連続のプラスとなったものの、前月(同+2.2%)と比べると伸びは大幅に低下している。産業別では、建設業や生活関連サービス等で上昇に寄与した。

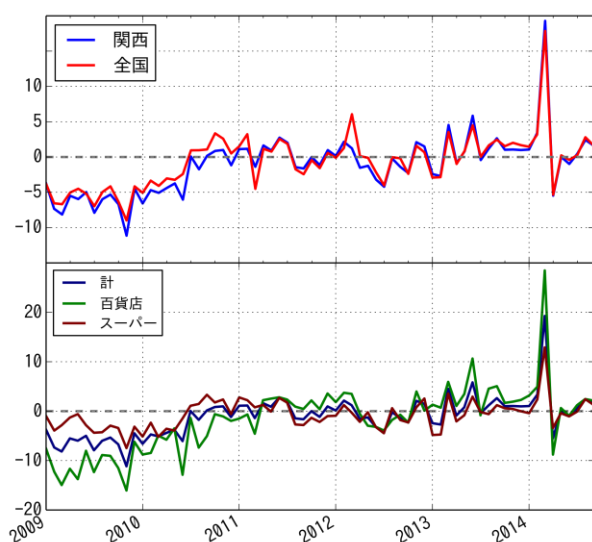
全国(確報値)では、9月は同+0.7%(速報値: +0.8%)と7カ月連続のプラスとなったものの、伸びは減速している。内訳をみると、所定内給与は前年比で+0.4%と4カ月連続の上昇、所定外給与が同+1.9%の上昇、特別給与が同+7.5%の上昇となった。現金給与総額から物価上昇分(帰属家賃を除く総合)を除いた実質賃金は同-3.0%と15カ月連続で減少が続いている。

## (2) 大型小売店販売額

関西の9月の大型小売店(百貨店+スーパー)の販売額(全店ベース)は、前年同月比+1.6%と3カ月連続のプラス。百貨店も同+2.1%と3カ月連続のプラス。スーパーも同+1.3%と2カ月連続のプラス。全国でも、9月の大型小売店販売額(全店ベース)は同+1.7%と3カ月連続のプラスとなっている。

関西、全国ともに消費は増税後緩やかながら改善が続いている。

大型小売店販売額 (前年同月比: %, 2014年9月まで)



(注) 福井県を含む。

(出所) 経済産業省「商業動態統計」(平成26年10月28日公表)

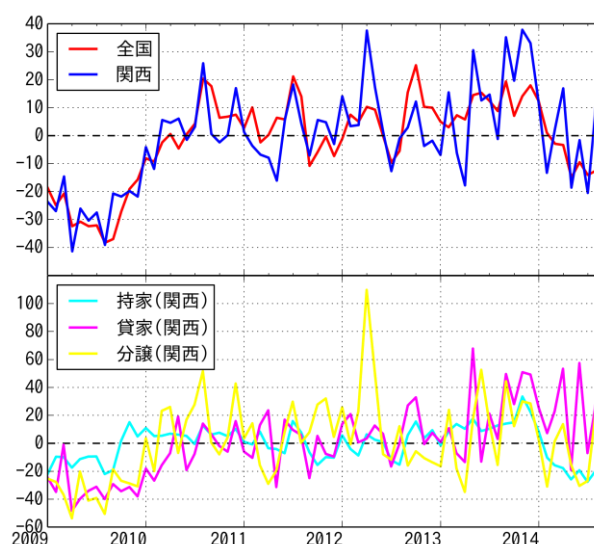
## (3) 新設住宅着工の動向

関西の9月の新設住宅着工戸数は11,707戸。前年同月比-14.0%と2カ月ぶりの大幅減となった。全国では同-14.3%と7カ月連続で減少している。

関西の住宅着工を利用関係別にみると、持家は同-19.0%と8カ月連続の2桁減、分譲が同-26.9%と2カ月ぶりの2桁減である一方で、貸家は同+4.2%と2カ月連続のプラスとなったが、伸びは前月(+27.7%)から大幅に減速している。

なお、10月の関西マンション契約率は72.8%(季節調整値、APIR 推計)となった。好不調の目安となる70%を37カ月連続(原数値は8カ月連続)で上回り、販売は好調を維持。

新設住宅着工(前年同月比: %, 2014年9月まで)



(出所) 国土交通省「住宅着工統計」(平成26年10月31日公表)

## 【雇用動向】

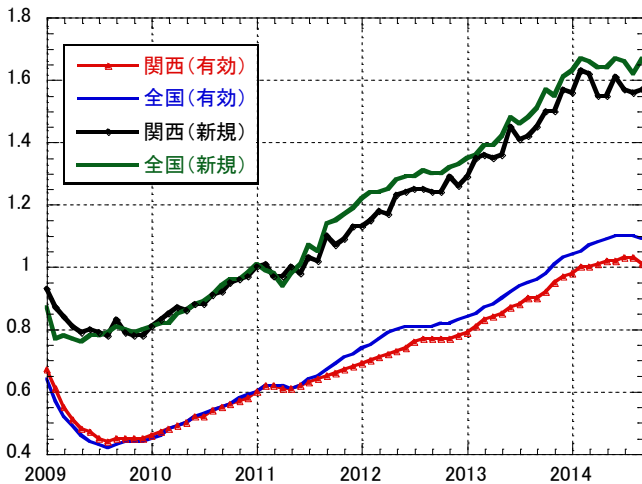
### (1) 求人倍率の動向

9月の関西の有効求人倍率は、1.01倍と前月比-0.02ポイント下落し、2011年4月以来3年5カ月ぶりの悪化となった。全国は1.09倍で前月比-0.01ポイント下落し、2011年5月以来3年4カ月ぶりの悪化。

9月の関西の新規求人倍率は、1.57倍と前月比+0.01ポイント上昇し、3カ月ぶりの改善。全国は1.67倍と同+0.05ポイントでこちらも3カ月ぶりの改善。医療・福祉や飲食関連で新規求人数が伸びており、求人意欲は回復傾向にある。

関西の有効求人倍率を府県別にみると、受理地別では滋賀県、大阪府、和歌山県で下落しており、特に和歌山県では前月比-0.06ポイントと最も大きかった。また、就業地別では大阪府で2カ月ぶりに1倍台を下回り、滋賀県では-0.04ポイント、和歌山県では-0.05ポイント下落した。

有効求人倍率の推移 (季節調整値、2014年9月まで)



(出所) 厚生労働省「一般職業紹介状況 (平成26年10月31日発表)

関西2府4県有効求人倍率(2014年9月)

9月	全国	関西	滋賀県	京都府	大阪府	兵庫県	奈良県	和歌山県
受理地別	1.09	1.01	0.93	1.05	1.09	0.90	0.90	0.99
就業地別	1.09	1.00	1.10	1.08	0.97	0.97	1.02	1.07

## (2) 完全失業率の推移

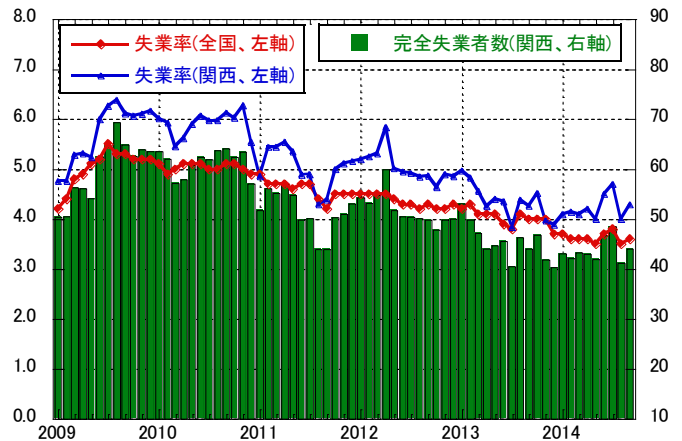
9月の関西の完全失業率(季節調整値: APIR 推計)は4.1%となり、前月(4.0%)から+0.1ポイント小幅上昇し、2カ月ぶりの悪化となった。非労働力人口の減少と、完全失業者の増加が失業率の上昇要因とみられる。

結果、関西の完全失業者数(季節調整値: APIR 推計)は44.0万人。前月(41.3万人)から2.7万人増加した。

全国の完全失業率(季節調整値)は3.6%となり、前月(3.5%)から+0.1ポイント上昇。女性で自発的な離職(自己都合)が増加しており、職探しが増えたことが失業率を押し上げた。

全国の就業率(原数値ベース)をみると、73.2%と前月(72.8%)と比べて上昇しており、引き続き好調を維持している。

完全失業率の推移 (季節調整値: %, 万人、2014年9月まで)



(出所) 総務省「労働力調査」(平成26年10月31日発表)

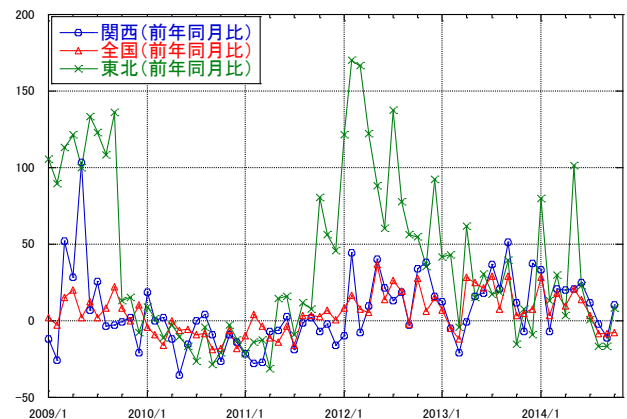
## 【公共投資】

### (1) 公共工事請負金額

10月関西の公共工事請負金額は1,505億円で前年同月比+10.8%と3カ月ぶりの増加。全国は1兆3,161億円で同-7.4%と3カ月連続の減少。東北は2,534億円で同+8.7%と、3カ月ぶりの増加となった。足下、関西と東北の伸びはプラスとなった。

季節調整値(APIR 推計)で見ると、関西、全国共に2カ月ぶりに前月から一転大幅な減少となった(関西: 同-22.1%、全国: 同-23.5%)。公共工事受注はこのところ停滞している。

公共工事請負金額(前年同月比: %, 2014年10月まで)

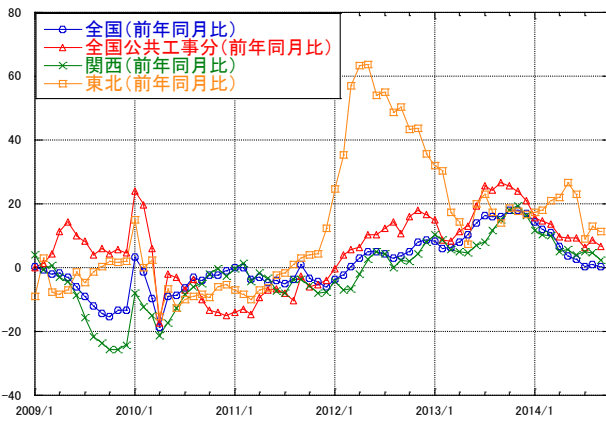


(出所) 東日本建設業保証株式会社「公共工事前払金保証統計」

(2) 建設工事

関西9月の建設工事は5,341億円、前年同月比+2.3%と29カ月連続の増加も、伸びは6カ月連続で1桁となり前月(同+4.8%)から低下した。東北は5,723億円、同+11.4%と38カ月連続の増加も、伸びは前月(同+13.0%)から低下。全国は4兆3,332億円となり同+0.3%と31カ月連続の増加、全国の公共工事は1兆9,333億円で同+6.7%と32カ月連続の増加も、いずれも伸びは6カ月連続で1桁にとどまり前月(全国:同+1.2%、全国公共:同+8.7%)から低下した。全国的に建設工事の伸びは減速感が強まっている。

建設工事(前年同月比: %、2014年9月まで)



(出所) 国土交通省「建設総合統計」

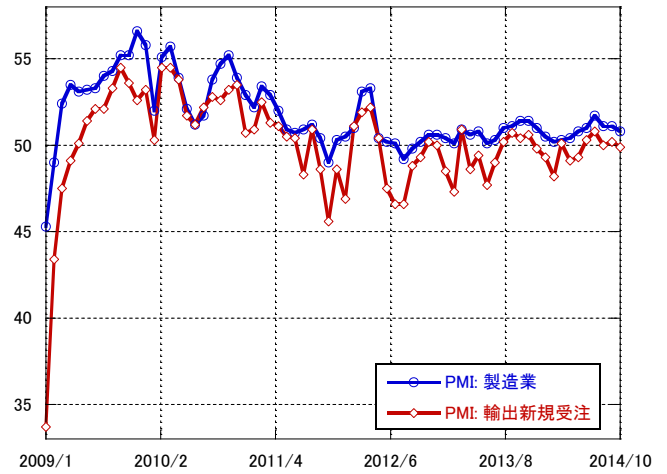
【中国景気モニター】

(1) センチメント

10月の製造業購買担当者景況指数(PMI)は、前月から-0.3ポイント低下し、50.8となった。

うち、生産指数は53.1と同-0.5ポイント低下し、2カ月ぶりの悪化となった。新規受注指数は51.6となり、同-0.6ポイント低下し、3カ月連続の悪化。輸出新規受注は同-0.3ポイント低下し49.9と、5カ月ぶりに50を下回った。一方、雇用指数は48.4となり、前月から+0.2ポイント上昇した。2012年6月以来、28カ月連続で50を下回っている。

中国製造業購買担当者景況指数(2014年10月まで: %)



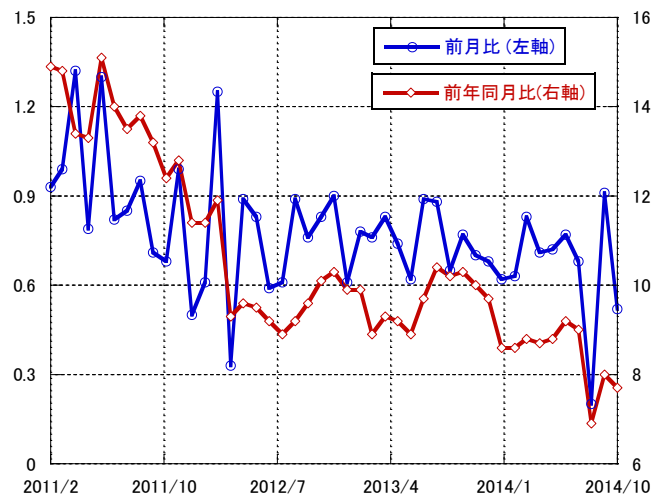
(出所) 中国国家统计局; CEIC データベース

(2) 工業生産

10月の工業生産は、前月比+0.5%となり、9月の伸び(同+0.9%)から減速した。前年同月比も+7.7%と前月(+8.0%)より幾分減速した。

産業別に見ると、鉄道・輸送機器製造業(前年同月比+13.2%)、自動車製造業(同+12.6%)、パソコン・通信設備製造業(同+12.2%)が高い伸びを示す一方で、繊維工業(同+6.3%)、鉄鋼などの製錬・圧延加工業(同+4.7%)、電力・熱力生産・供給業(同+2.0%)は比較的低調な伸びにとどまった。

工業生産指数(2014年10月まで: %)



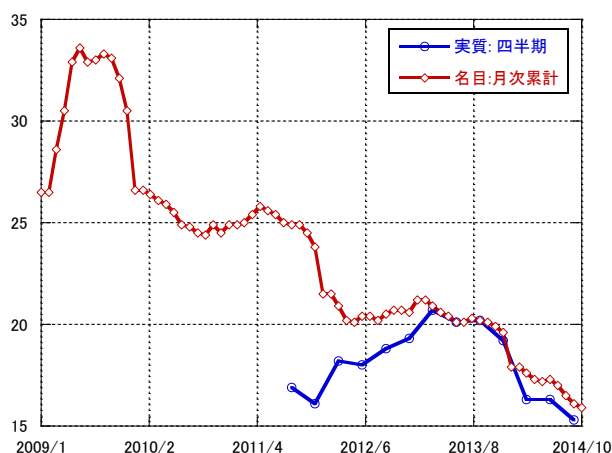
(出所) 中国国家统计局; CEIC データベース



### (3) 固定資産投資

2014年1-10月期の(累積)固定資産投資(名目)は前年同期比+15.9%と4カ月連続の減速(1-9月期同+16.1%)となった。産業別に見れば、第1次産業は同+28.9%(前月+27.7%)、第2次産業は同+13.4%(前月+13.7%)、第3次産業は同+17.4%(前月+17.4%)となった。

固定資産投資 (2014年10月まで：%) (累積伸び率)

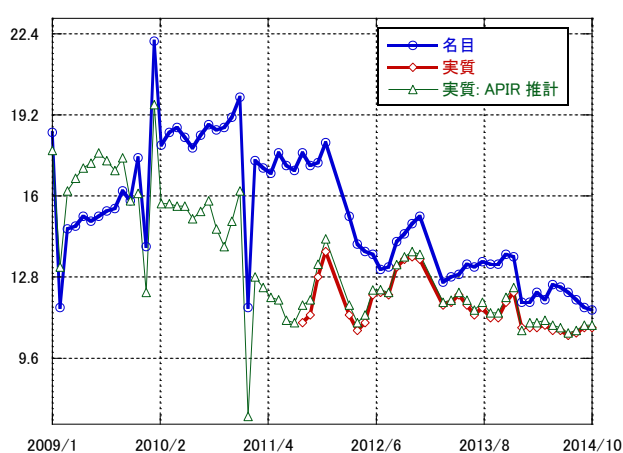


(出所) 中国国家统计局; CEIC データベース

### (4) 消費

10月の社会消費品小売総額の名目成長率は前年同月比+11.5%となり、前月(同+11.6%)から幾分減速した。消費は中国经济成長のエンジンと期待されているが、5カ月連続の減速となった。

社会消費品小売総額 (2014年10月まで：%)



(注) : APIR 値は小売価格指数を用いて計算した値

(出所) 中国国家统计局; CEIC データベース

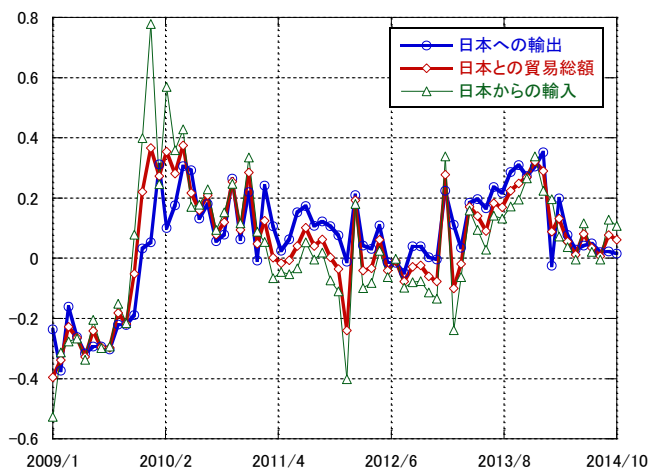
### (5) 貿易動向

10月の中国の輸出額(速報値、ドル・ベース)は前年同月比+11.6%増加し、7カ月連続のプラス。輸入額は同+4.6%(速報値)となり、2カ月連続のプラスとなった。

うち日本への輸出額は同-8.1%となり、3カ月連続のマイナス。日本からの輸入額は同+0.3%となり、2カ月連続のプラスとなった。

円ベースに換算すると、日本への輸出額は同+1.5%となり、8カ月連続のプラス。日本からの輸入額は同+10.8%となり、2カ月連続のプラスとなった。

日本との貿易 (前年同月比; 円ベース) (2014年10月まで：%)

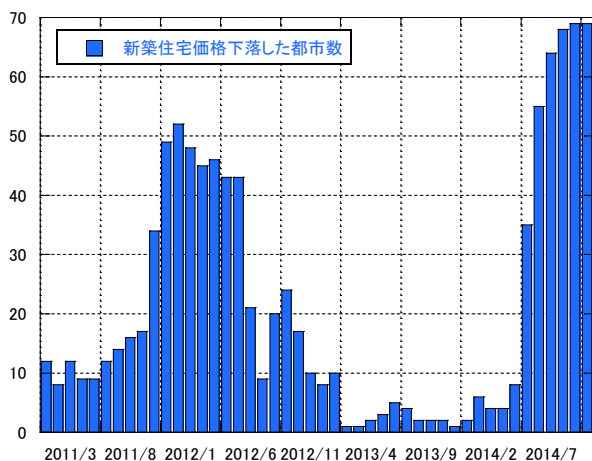


(出所) 中国税関; CEIC データベース; APIR 計算

### (6) 不動産市場

不動産価格から見ると、中国主要70都市のうち、69都市の新築住宅価格が前月に比べて下落した。下落した都市の数は9月の69都市と横ばい。不動産市場の減速により、下半期の中国经济は引き続き下振れリスクに直面する。

新築住宅価格の主要都市集計 (2014年10月まで：都市数)



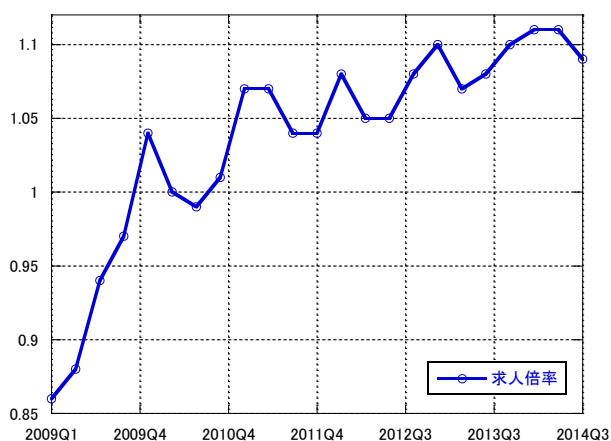
(出所) 中国国家统计局; CEIC データベース;

(7) 求人倍率

7-9 月期の有効求人倍率は 1.09 となり、4-6 月期(1.11)より小幅低下した。求人数は前期比-9.1%の減少、求職者数は同-8.2%の減少となった(102 主要都市ベース)。

求人倍率を地域別に見ると、東部は 1.06(前期 1.12)、中部は 1.06(前期 1.08)、西部は 1.20(前期 1.10)となっている。西部の労働需給は相対的に逼迫している。

求人求職倍率 (2014 年第 3 四半期まで)



(出所) 中国労働市場情報観測センター; CEIC データベース;

APIR 計算

Contact: 岡野光洋・林万平・木下祐輔

Tel. 06-6485-7695,

E-mail. contact@apir.or.jp



## Release Calendar for APIR Monthly

Monday	Tuesday	Wednesday	Thursday	Friday
27-Oct	28-Oct	29-Oct	30-Oct	31-Oct
3-Nov 中国製造業 PMI* (10月) 中国求人倍率 (7-9期)	4-Nov	5-Nov 毎月勤労統計 (9月:速報値)	6-Nov	7-Nov 中国輸出入** (10月:速報値)
10-Nov 近畿鉱工業生産指数 (9月速報)	11-Nov 消費動向調査(10月) 景気ウォッチャー調査 (10月)	12-Nov	13-Nov 商業動態調査 (9月:確報値) 全国鉱工業生産指数 (9月:確報値) 中国工業生産(10月) 中国固定資産投資 (10月) 中国消費小売総額 (10月)	14-Nov 公共工事前払保証額 統計(10月)
17-Nov 建設総合統計(9月) マンション契約率 (10月)	18-Nov 毎月勤労統計 (9月:確報値)	19-Nov	20-Nov 全国貿易統計 (10月:速報) 近畿貿易統計 (10月速報)	21-Nov
24-Nov	25-Nov 近畿鉱工業生産指数 (9月確報)	26-Nov 近畿貿易統計 (10月確速)	27-Nov 全国貿易統計 (10月:確速)	28-Nov 新設住宅着工(10月) 求人倍率(10月) 完全失業率(10月) 商業動態調査 (10月:速報値) 全国鉱工業生産指数 (10月:速報値)

\*) 11月1日に更新

\*\*\*) 11月8日に更新